



## 令和5年 新年知事あいさつ

長崎県知事 大石 賢吾

新年明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年2月の知事選挙におきまして、長崎県知事として県政のかじ取りを担わせていただくこととなり、これまで、中村前知事からの継続性も重視しながら、県政の発展に全力で取り組んでまいりました。

本年も、県民の皆様のご期待に応えることができるように、様々な取り組みを進めていきたいと考えております。

昨年を振り返ってみますと、長年の悲願でありました西九州新幹線が、9月に開業を迎えました。新幹線の開業は、今後の地域や産業の振興にとって大きなチャンスであります。開業効果の最大化に向け、官民一体となって、観光客の受入体制の充実や本県魅力の情報発信などに取り組んでいきます。

また、G7広島サミットに合わせて行われる保健大臣会合の長崎県開催が決定いたしました。長崎と広島は、ともに原爆被爆の惨禍を経験し、核兵器廃絶と世界平和への想いの発信を続けてきた平和都市であります。本県知事として初めて参加したNPT再検討会議においても、広島県との共催でシンポジウムを開催し、両県で核なき世界の実現に向けたメッセージを発信しました。今後、本県が、国際的な視点から役割を果たしていくための大きな一歩を踏み出すことができたと考えております。

一方、新型コロナウイルス感染症につきましては、県民の皆様をはじめ、多くの関係者のご協力をいただきながら、国の動向も踏まえた様々な感染拡大防止対策に取り組んできました。今後も、社会経済活動の持続とコロナとの共生を図るための施策を積極的に講じてまいります。

これからの県政を進めるにあたって、私は、ふるさと長崎県を誇りに思い、将来を担っていく人材を育てることが、本県の発展に最も重要なテーマであると考え、子ども施策を県政の基軸として位置付けております。

このため本年は、安心して結婚、妊娠・出産、子育てができる環境づくりのほか、子どもたちが予測困難な社会を生き抜き、チャレンジする資質や能力を身に付けられる教育環境の整備など、関連施策の取組を加速していきます。

本年における重点的な取組として、全世代の豊かで安全・安心な暮らしの確保にも努めてまいります。医療・福祉・介護等の充実や人材確保とともに、「長崎健康革命プロジェクト」を推進し、健康長寿日本一を目指します。また、自然災害の激甚化や頻発化に対応するため、地域や県民の防災力を高め、災害に強い社会基盤の整備など、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策にも取り組めます。

長期的視点から本県の発展を考えると、みんながチャレンジできる環境づくりもとても重要です。このため、スタートアップ企業の集積を目指し、投資家からの資金調達を円滑に進める仕組みづくりなど、起業にチャレンジしたいと思っただけの環境づくりを進めます。また、新たな基幹産業の創出に向け、企業の誘致や育成を図ります。

一方、農林水産業分野においては、スマート技術等を活用した所得向上対策を進め、U I ターンを含め農林水産業に新たにチャレンジする若者を応援する取組のほか、教育分野における小中学校から高校までの一貫したふるさと教育などにより、働く場づくりと人づくりの好循環を生み出します。

今後のデジタル社会の進展を見据え、国境離島等における先端技術を活用した地域課題の解決や先進事例の創出、さらには教育面も含む様々な分野におけるデジタル化やDX（デジタル・トランスフォーメーション）により「長崎県版デジタル社会」の実現を目指します。

さらに、本県ならではの歴史や伝統、自然景観等の強みを活かした観光・文化・スポーツのまちづくりのほか、戦略的な情報発信やブランディングにも注力し、多くの皆様に、本県を移住先や定住の地として選んでいただきたいと考えております。

また大きなイベントとしても、本年5月にG7広島サミットの保健大臣会合、令和6年度には日本スポーツマスターズ、令和7年度には国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が本県で開催されます。この機会に、一人でも多くの皆様に「本県を訪れたい」と思ってもらえるよう、積極的に本県の多彩な魅力を国内外に発信し、地域経済の活性化にもつなげてまいります。

本県は100年に一度の変革の時期を迎えております。この変革の時期をチャンスとして捉え、新年においてもこれらの取組を通じて、「新しい長崎県づくり」「選ばれる長崎県づくり」の実現に向け、県民の皆様と想いを一つにしながらいそいそと全力を尽くしてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。